

自治体財政 改善のヒント 第44回

4万席140億円のスタジアム 公的負担なしで整備できた理由

大和エネルギー・インフラ 投資事業第三部副部長 鈴木 文彦

サッカー J1ガンバ大阪の本拠地で、万博記念公園にある「パナソニックスタジアム吹田」は吹田市の公共施設である。正式名称を市立吹田サッカースタジアムという。収容能力4万席で2015年に竣工、整備費は140億円だった。うち105億円はサポーターや地元企業等の寄付金が充てられ、市の負担は一切なかった。

負担付き寄付で得た48年の指定管理期間

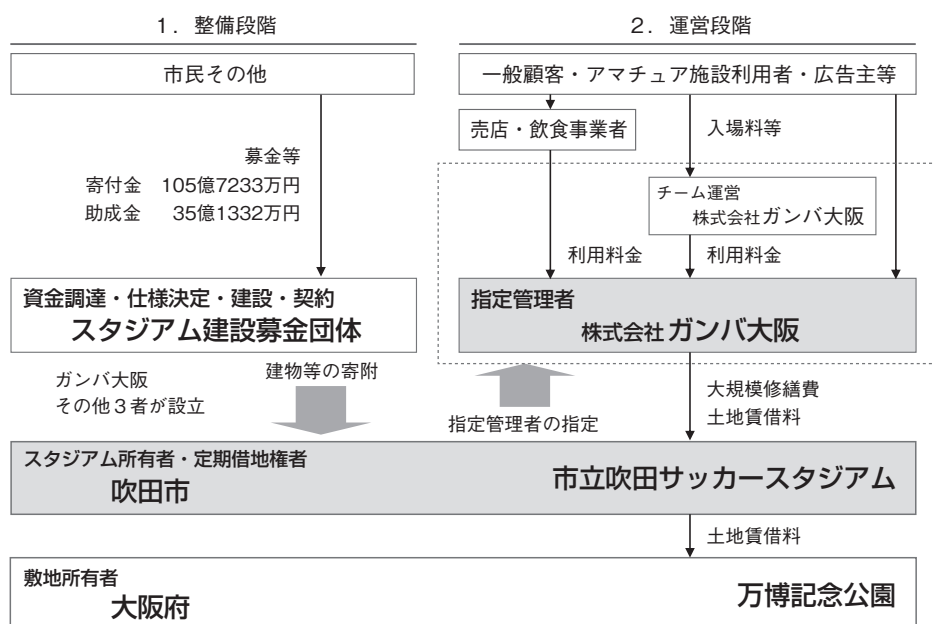
前の本拠地で大阪万博の翌々年に開場した万博記念競技場は老朽化が懸念されていた。国際大会を開催するには収容能力が小さく、元々が陸上競技場でスタンドからピッチまでの距離があるのも気になった。他方、J1クラスのサッカー専用スタジアムを新たに整備するにしても、リーマン・ショックの余波が残る中、人口35万人の吹田市の単独負担は荷が重かった。

そこで一計を講じる。市民から広く募金を集め、それを原資にスタジアムを整備した。竣工したスタジアムは吹田市に寄付。運営を担う指定管理者にガンバ大阪を指定することが条件だった。期間は15

年9月から63年3月まで47年6カ月の長期に及ぶ。

運営にあたっては完全な独立採算が求められた。スタジアムにかかる経費は指定管理者が収受する利用料金、広告料、売店・飲食事業者が支払うテナント料で賄われる。図は資金の流れを示している。スタジアムの指定管理者としてのガンバ大阪とそれ以外、いわばクラブチームとしてのガンバ大阪が区分経理されている点に留意されたい。クラブチームのガンバ大阪が入場料を収受し、指定管理者としてのガンバ大阪はクラブチームのガンバ大阪から利用料金を得ている。また、スタジアム運営に関する経費だけでなく、敷地を所有する大阪府に支払う賃借料、スタジアムの大規模修繕

図 吹田サッカースタジアムの整備・運営の事業スキーム



出所：大和エネルギー・インフラ作成

表 吹田サッカースタジアムの経常損益 (2018年度)

単位：百万円	指定管理者	吹田市	合計
経常収益	840	422	1,262
プロ興行利用料	216	—	
料金低減負担金	108	—	
ガンバ納付金	—	201	
ネーミングライツ	—	216	
経常費用	664	766	1,430
人件費	x	30	
市への負担金	201	—	
地代	—	151	
料金低減負担金	—	108	
減価償却費	—	449	
経常利益	176	▲344	▲168

出所：吹田市行政コスト計算書、指定管理者事業報告書から大和工ナジー・インフラ作成。指定管理者の経常費用内訳は非開示

費もガンバ大阪が負担することになっている。

表はスタジアムの経常損益を示している。吹田市の行政コスト計算書と指定管理者の事業報告書の収支を合算した。指定管理者の経常収益は8億4000万円、うちサッカー興行にかかる利用料金は2億1600万円だった。人件費その他の経常費用は6億6400万円。このうち吹田市に支払う負担金は2億100万円だった。経常費用には芝の張替えやスタジアムの修繕費、備品購入費が含まれている。

吹田市スタジアム事業の経常収益は指定管理者から得る負担金の他にネーミングライツ対価2億1600万円がある。経常費用をみると約6割が減価償却費だ。料金低減負担金は指定管理者に対する還元金で、ネーミングライツの半分である。

経常損益をみると、指定管理者が1億7600万円の黒字、吹田市スタジアム事業が3億4400万円の赤字で合算すると1億6800万円の赤字となる。もっとも赤字要因のほとんどは減価償却費。これは整備費を耐用年数に案分したもので、同額のキャッシュが流出しているわけではない。借入金がないため返済負担もない。減価償却の代わりに将来の大規模修繕に備えた積み立てをしている。指定管理者が負担する修繕積立金は本年度5000万円だが、来年度以降漸増し、計画上は50年累計で整備費の半分強、76億円となる。

公共調達でないことが整備費抑制に

整備主体はスタジアム建設募金団体という任意

団体だった。寄付金を集めるにあたって税務上の措置を得るためだが、整備主体が公共主体でなかったことが整備費の抑制、品質の向上に奏功した。4万席規模で140億円の整備費は相当安価だ。

理由のひとつは、不入りによる赤字リスクを負う事業者、ガンバ大阪がスタジアムの仕様を決めたことだ。吹田市の要求水準はJリーグ公式戦を開催できる等、抽象度の高い性能要件で規定され、デザインや施工方法は受注者に委ねられた。たとえばホーム側のロッカールームの仕様やスタンドの座席数、形状はアウェー側と異なる。集客を意識してのことだが、公平を旨とする公共仕様は左右対称が普通だ。コストを優先し、来場者から見えない部分は配線等がむき出しになっている。スタジアムの電気製品はガンバ大阪の親会社のパナソニック製だ。吹田市文化スポーツ推進室に聞くと、伝統的な公共仕様は来場者に見えない部分でも配線等を隠すように設計する。メーカー指定もよほどの理由がない限り不可能とのことだった。

もうひとつの理由は、何かと制約がある公共調達の枠組みを取らずにすんだことだ。民間発注なので、分離・分割発注や一般競争入札を原則とする自治体の調達慣習に縛られることがない。プロポーザルで選定した竹中工務店に設計・施工一括発注した。施工業者の得意とする技術をあらかじめ設計図面に落とし込むことができるのが特長だ。発注価格は交渉を重ねて決めた。

工程全体のマネジメントを担当した安井建築設計事務所の水川尚彦専務執行役員によれば、仕様や施工方法に融通が利く民間発注の強みがスタジアムの施工でも発揮された。たとえば募集要項上の収容能力は3万2000席だったが、提案書の工事費が安かったため計画時に4万席に増やした。構造は鉄筋コンクリート造だったが、計画がだいぶ進んだところでプレキャストコンクリート方式に変更した。コストは若干高くつくが、震災後の人手不足の影響で工期が遅れるリスクを考えればこちらの方が有利と判断したからだ。公共発注の常識に照らせば、設計作業が終盤になって、ましてコスト増を伴う変更は手続き上かなり難しい。G